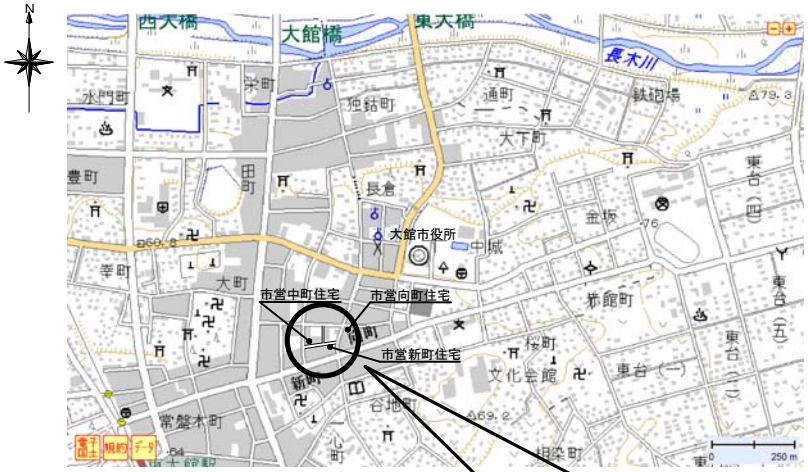
要求水準書（案） 質問記入欄

No	頁	1	1.1	1.1.1	(1)	1)	①	i)	a	項目等	質問内容	回答
1	4	1	3	4						PFI事業者の収入	資料4ページに「建設一時金（施設整備の対価の一部）を支払い、また、供用開始から事業期間終了までの間、定期的に支払う。」と記載されております。施設整備に係るサービス購入費は、建設一時金と年2回のサービス購入費で支払われると理解しておりますが、建設一時金で支払われるサービス購入費は、施設整備の対価の内、何割程度になりますでしょうか。	入札説明書の公表の際にお示しします。
2	4	1	3	3	（2）		⑥			所有権設定に係る業務	資料4ページ1．3．3（2）には、建設・工事監理業務の範囲に所有権設定に係る業務があり、P28 3．2．1に「第一期工事分、第二期工事分について、平成28年1月末までを目安に建設工事を完了し、遅滞なく不動産登記に必要な手続き業務を行うこと」と記載されておりますが、SPCが行う所有権設定に係る業務の範囲（不動産登記の種類）をご教示下さい。	不動産登記の種類は、建物表示登記及び所有権保存登記を想定しており、事業者の業務範囲としては、申請に必要な完成図書等の書類の作成・提出を想定しています。
	28	3	2	1								
3	資料3									中町の前面道路	敷地の東側の道路　中町32（病院との間の狭い道）は建築基準法上の道路扱いの道路でしょうか？　（他の道路には道路名称がありますがこの道には名称が無いため）	市所有の土地になりますが、建築基準法第42条第2項に規定される道路ではありません。
4										杭の検討	杭の検討をするにあたって1敷地の中で地盤の耐力にバラつきがあり地質の流れがわからないため、地盤調査会社による地質想定断面図等の資料はいただけますでしょうか？	要求水準書（案）の添付資料「資料4 事業予定地地盤調査資料」に左記資料を追加します。



案　内　図

住　宅　名	所　在　地
市営新町住宅	大館市字新町40番地
市営中町住宅	大館市字中町34番地
市営向町住宅	大館市字向町3番地1

土質ボーリング（機械ボーリング）		標準貫入試験	室内地質試験
ボーリング番号	掘　進　長	試験回数	
No.1	25.0m	25回	
No.2	25.0m	25回	◎
No.3	25.0m	25回	
No.4	25.0m	25回	◎
No.5	25.0m	25回	◎
No.6	25.0m	25回	
No.7	25.0m	25回	

配置図　1/1000

ボーリング柱状図

調　査　名　市営新町住宅他建替えに係る地質調査業務

ボーリングNo 1

事業・工事名

シートNo

ボーリング名	No. 1	調査位置	大館市字中町34番地			北緯	
発注機関	大館市			調査期間	平成 23年 11月 14日 ～ 23年 11月 17日	東経	
孔口標高	GH=65.306m	角度	180° 上 90° 下 0°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 90° 水平0°
総掘進長	25.00m						

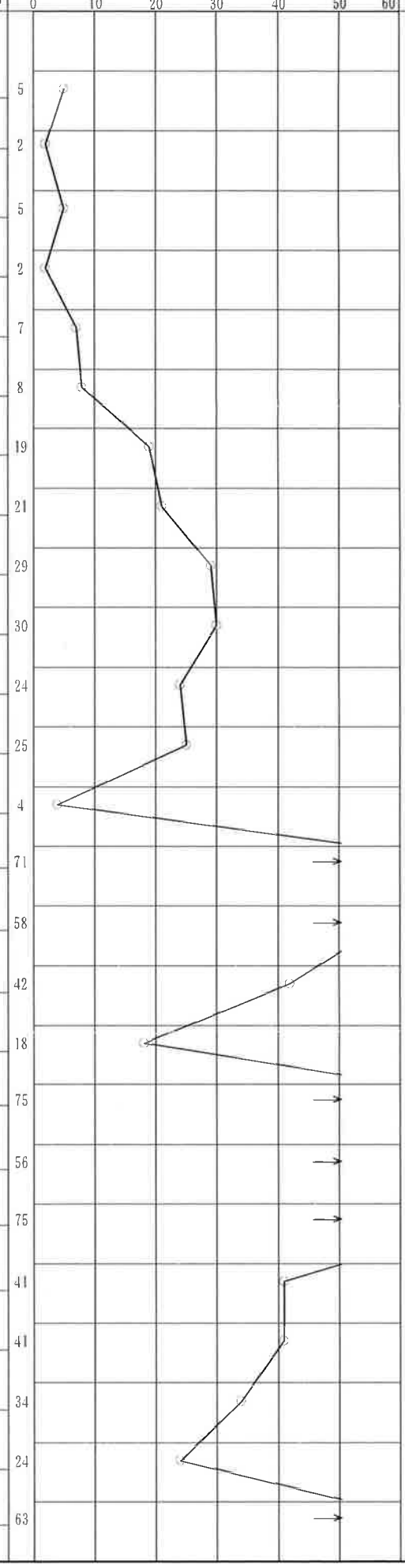
使用機種			
試錐機	TS-100	ハンマー落下用具	コーンプーリー
エンジン	NFD-12	ポンプ	NOP-40

標尺(m)	標高(m)	層厚(m)	深度(m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事
1	63.31	2.00	2.00		盛土	暗灰～褐灰	緩い		0.00～0.50m 砕石 0.50～2.00m 砂礫 1.00m付近 φ100mmの玉石点在 全体にφ70mm前後の亜円礫、角礫多く含む
2	60.46	2.85	4.85		有機質土	黒	非常に緩い		非常に含水多い 木片混入する φ10mm前後の亜円礫混入する
5	57.81	2.65	7.50		粗砂	暗青灰～褐灰	緩い		GL-4.85～5.05m間φ5～15mmの軽石多く含む、若干シルト質である 上部暗青灰色で6.00m付近から褐灰色である 含水やや多い 浮石、小礫混入する
8	52.31	5.50	13.00		砂混じり火山灰	暗灰	中位の		非常に含水多い 最大φ15mmくらいの軽石混入する 砂は、粗砂主体である。 所々砂を多く含む層挟む
13	51.31	1.00	14.00		火山灰質シルト	青灰	緩い		含水やや多い 粘性少ない
14	40.31	11.00	25.00		砂礫	褐灰～青灰～褐灰	中位の～密な～非常に密な		含水少ない 礫はφ20～30mmの角礫主体である 最大φ50mmの角礫混入する 17.30m付近から所々火山灰質シルト挟む 全体に若干の粘土質である GL-20.00m付近より風化が激しく褐色～黄褐色を呈する。 凝灰岩質で角礫が多い、非常に良く締まっている。

孔内水位(m)／測定月日：11/16 2.35

標準貫入試験

深度(m)	10cmごとの打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量(cm)	N値
1.15	2	2	1	5/30	5
1.45～2.15	1/15			1/15	2
2.30～3.15	1	2	2	5/30	5
3.45～4.15		1/20	1	2/30	2
4.45～5.15	2	3	2	7/30	7
5.45～6.15	3	3	2	8/30	8
6.45～7.15	5	6	8	19/30	19
7.45～8.15	5	6	10	21/30	21
8.45～9.15	7	10	12	29/30	29
9.45～10.15	8	10	12	30/30	30
10.45～11.15	7	7	10	24/30	24
11.45～12.15	6	8	11	25/30	25
12.45～13.15	1	1	2	4/30	4
13.45～14.15	20	25	5/1	50/21	71
14.36～15.15	14	20	16/6	50/26	58
15.41～16.15	12	13	17	42/30	42
16.45～17.15	8	5	5	18/30	18
17.45～18.15	17	33		50/20	75
18.35～19.15	15	18	17/7	50/27	56
19.42～20.15	20	30		50/20	75
20.35～21.15	12	13	16	41/30	41
21.45～22.15	14	14	13	41/30	41
22.45～23.15	9	10	15	34/30	34
23.45～24.15	5	8	11	24/30	24
24.45～25.15	15	19	16/4	50/24	63
25.39					



原位置試験 深度(m)	試験名および結果

試料採取 深度(m)	試料番号	採取方法

室内試験(一)

掘進月日：11/14、11/15、11/16、11/17

ボーリング柱状図

調　査　名　市営新町住宅他建替えに係る地質調査業務

ボーリングNo	2

事業・工事名

シートNo

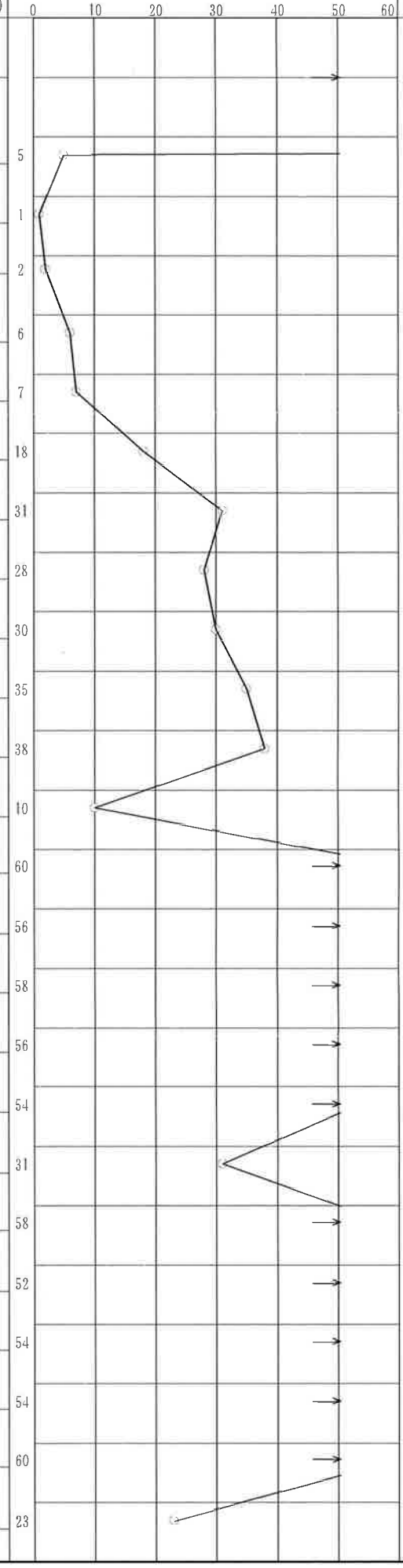
ボーリング名	No. 2	調査位置	大館市字中町34番地			北緯	
発注機関	大館市			調査期間	平成 23年 11月 18日 ～ 23年 11月 21日	東経	
孔口標高	GH= 65.530m	角度	180° 上 90° 下 0°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 90° 水平0°
総掘進長	25.00m	使用機種	試錐機	TS-100	ハンマー落下用具	コーンプーリー	
			エンジン	NFD-12	ポンプ	NOP-40	

標尺(m)	標高(m)	層厚(m)	深度(m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事
1					盛土	灰	礫に当る		0.00～1.70m間　φ150mm位の玉石他廃棄物を多く含む 廃棄物はコンクリート片他エンビパイプ、イモノを含む
2	63.53	2.00	2.00						1.70m以深、礫である
3					有機質土	黒	非常に緩い		上部非常に含水多い 腐植物混入する 木片混入 標準貫入試験（4.15～4.45m）は、15cm自沈、1/15cm。
4	60.93	2.60	4.60						
5					礫混じり砂	暗灰	緩い		含水多い 小礫混入する 砂は粗砂である
6	59.53	1.40	6.00						
7					細砂	暗灰～褐灰	緩い～中位の		上部に若干粗砂混じる 下部に従い均一する 含水やや多い
8	56.93	2.60	8.60						
9					砂混じり火山灰	暗灰～灰	中位の～密な		含水やや少ない～中位 上部細砂を多く含む 下部に従いφ2～3mmの浮石を多く含む 小礫混入する
10									
11									
12									
13	52.43	4.50	13.10						
	51.63	0.80	13.90		火山灰質シルト	暗青灰	緩い		含水中位 小礫混入する
14					砂礫	褐灰～暗青灰～褐灰	密な～非常に密な		含水中位 礫はφ20～30mmの角礫・亜円礫主体
15									
16									
17									17.00m付近から含水やや多く、礫も最大φ50mmの亜円礫を混入する 砂は粗砂である 所々粗砂を10cm間隔で挟む 礫はφ20～50mmの亜円礫角礫主体である 所々砂質シルトを挟んでいる 含水中～やや多い
18									
19									
20									
21									
22									
23									
24									
25	40.53	11.10	25.00						

孔内水位(m)／測定月日：11/21 2.15

標準貫入試験

深度(m)	10cmごとの打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量(cm)	N値
1.00	貫入不能			50/0	
1.00～2.15	2	2	1	5/30	5
2.45～3.15	1/30			1/30	1
3.45～4.15	1/15			1/15	2
4.30～5.15	1	3	2	6/30	6
5.45～6.15	3	2	2	7/30	7
6.45～7.15	5	6	7	18/30	18
7.45～8.15	9	10	12	31/30	31
8.45～9.15	6	10	12	28/30	28
9.45～10.15	7	10	13	30/30	30
10.45～11.15	10	11	14	35/30	35
11.45～12.15	11	12	15	38/30	38
12.45～13.15	3	4	3	10/30	10
13.45～14.15	19	19	12/5	50/25	60
14.40～15.15	13	17	20/7	50/27	56
15.42～16.15	21	17	12/6	50/26	58
16.41～17.15	16	20	14/7	50/27	56
17.42～18.15	14	18	18/8	50/28	54
18.43～19.15	9	9	13	31/30	31
19.45～20.15	15	19	16/6	50/26	58
20.41～21.15	15	17	18/9	50/29	52
21.44～22.15	16	18	16/8	50/28	54
22.43～23.15	18	18	14/8	50/28	54
23.43～24.15	18	15	17/5	50/25	60
24.40～25.15	5	7	11	23/30	23
25.45					



原位置試験

深度(m)	試験名および結果

試料採取 深度(m)	試料番号	採取方法	室内試験（　）	掘進月日
5.15～5.45	S-1			
6.15～6.45	S-2			
8.15～8.45	S-3			
				11/18
				11/19
				11/21

ボーリング柱状図

調　査　名　市営新町住宅他建替えに係る地質調査業務

ボーリングNo 3

事業・工事名

シートNo

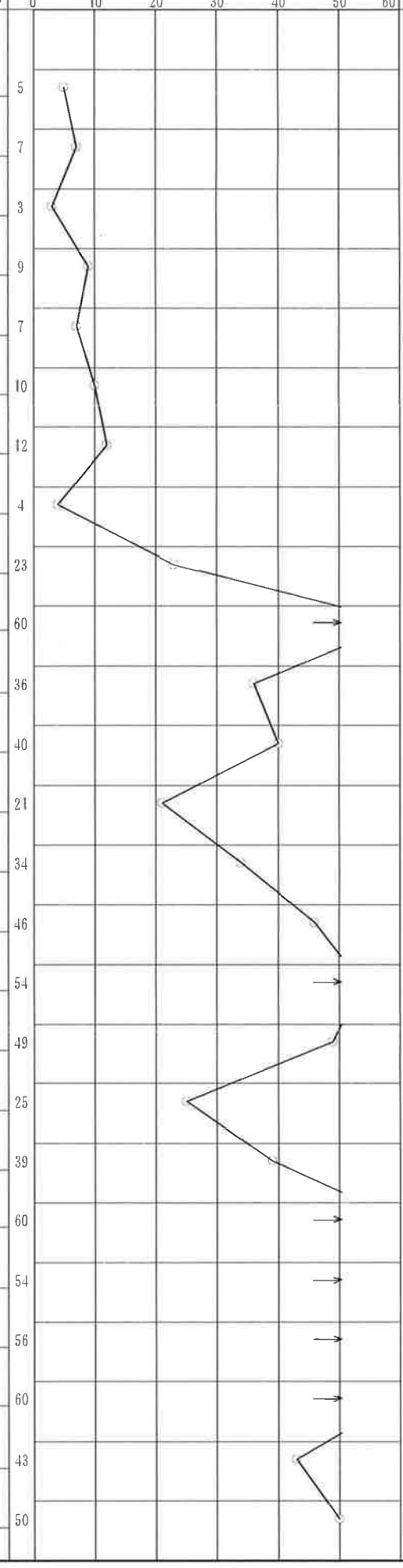
ボーリング名	No. 3	調査位置	大館市字新町40番地			北緯	
発注機関	大館市			調査期間	平成 23年 11月 22日 ～ 23年 11月 25日	東経	
孔口標高	GH=66.956m	角度	180° 上 90° 下 0°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 90° 水平 0°
総掘進長	25.00m	使用機種	試錐機	TS-100	ハンマー落下用具	コーンプーリー	
			エンジン	NFD-12	ポンプ	NOP-40	

標尺(m)	標高(m)	層厚(m)	深度(m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事
	65.96	1.00	1.00		盛土	黒			黒ボクでφ20～30亜円礫含む GL-0.60m付近φ250mmの玉石点在する
	64.96	1.00	2.00		火山灰質砂	褐灰～暗灰	緩い		含水中位 若干の粘性をもち、細砂である 含水やや多い φ2～3mmの浮石主体で砂は粗砂である。
	62.36	2.60	4.60		腐植土	黒	緩い		木片混入する。 含水少ない 下部に従い含水非常に多い
	56.46	5.90	10.50		火山灰混じり砂	淡褐灰	緩い～密な		含水中～やや多い 砂は細砂～粗砂である 全体に均質な火山灰で緩く堆積している。 礫径φ5～10mmの軽石が多く含水比高い 9.00m付近、浮石を多く含む層挟む 浮石はφ1～2mm主体である
	52.96	3.50	14.00		砂混じり火山灰	暗灰	中位の～密な		含水中位 上部若干固結する層有り 砂は、粗砂で、石英砂を多く含む
	50.96	2.00	16.00		砂礫	暗灰～青灰	密な		14.50m以深から青灰色で粘性をもつシルト混入する 礫はφ10～30mmの亜円礫、角礫である
	41.96	9.00	25.00		砂礫	褐灰	中位の～密な～非常に密な		含水中位 礫はφ20～40mmの亜円礫、角礫である 砂は細砂から粗砂で所々細砂を多く含む層挟む 所々粘性の層を挟み、全体に粘土混じりである レキはφ20～40mm角礫・亜円礫主体 24.50m付近から泥水が逸水する

孔内水位(m)／測定月日：11/24 3.05

標準貫入試験

深度(m)	10cmごとの打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量(cm)	N値
1.15	1	2	2	5/30	5
2.15	1	3	3	7/30	7
3.15	2		1/20	3/30	3
4.15	3	3	3	9/30	9
5.15	2	2	3	7/30	7
6.15	3	3	4	10/30	10
7.15	4	5	3	12/30	12
8.15	1	1	2	4/30	4
9.15	6	8	9	23/30	23
10.15	13	20	17/5	50/25	60
11.15	8	13	15	36/30	36
12.15	12	13	15	40/30	40
13.15	6	7	8	21/30	21
14.15	16	12	6	34/30	34
15.15	15	16	15	46/30	46
16.15	14	18	18/8	50/28	54
17.15	13	16	20	49/30	49
18.15	5	7	13	25/30	25
19.15	10	14	15	39/30	39
20.15	17	18	15/5	50/25	60
21.15	15	16	19/8	50/28	54
22.15	13	18	19/7	50/27	56
23.15	15	20	15/5	50/25	60
24.15	14	13	16	43/30	43
25.15	14	15	21	50/30	50



原位置試験 深度(m)	試験名および結果	試料採取 深度(m)	試料番号	採取方法	室内試験(一)	掘進月日
						11/22
						11/23
						11/24
						11/25

ボーリング柱状図

調　査　名　市営新町住宅他建替えに係る地質調査業務

ボーリングNo 4

事業・工事名

シートNo

ボーリング名	No. 4	調査位置	大館市字新町40番地			北緯	
発注機関	大館市			調査期間	平成 23年 11月 17日 ～ 23年 11月 19日	東経	
孔口標高	GH= 66.668m	角度	180° 上 90° 下 0°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 水平0° 90°
総掘進長	25.00m						

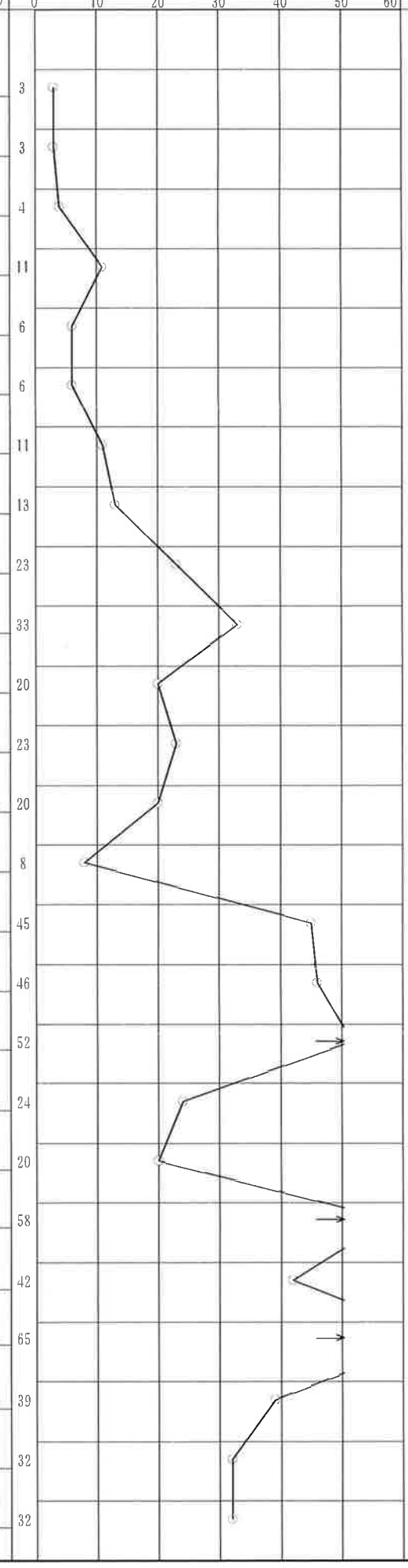
使用機種				
試錐機	東邦D-1B	ハンマー落下用具	コーンプーリー
エンジン	ヤンマーNFD-13EK	ポンプ	東邦BG-3C

標尺(m)	標高(m)	層厚(m)	深度(m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事
	66.17	0.50	0.50		表土	黒褐			Max50mm大の亜円礫混じる
	65.67	0.50	1.00		火山灰質砂	灰褐			砂分中砂で締まり弱い
1					礫混じり有機質土	黒褐	非常に緩い		60mm大の亜円礫有り とても軟い
2	64.57	1.10	2.10						
					礫混じり火山灰質砂	褐	非常に緩い		砂分粗砂 強風化した20mm大の軽石点在
3	63.62	0.95	3.05						
					腐植土	黒褐	非常に緩い		均質で強風化した有機物点在
4	62.67	0.95	4.00						
5					礫混じり火山灰質砂	暗灰	緩い～中位の～密な		φ10～2mmの亜角・亜円礫混入 砂分粗砂 孔壁崩壊しやすい やや締まる
6									
7									
8									
9									
10									
11	55.37	7.30	11.30						
12					シルト～シルト質砂	暗灰～灰緑	中位の～緩い		均質で軟い 砂分は細砂 やや粘性あり、若干含水比高い
13									
14	51.77	3.60	14.90						
15					シルト質砂礫	暗灰～褐	密な～中位の～密な		
16									色調、15.40m付近より褐色になる 砂分粗砂 φ60～2mmの角・亜角礫 マトリックスでシルト 砂分粗砂
17									
18									GL-18.00～19.50mシルト分多く、 礫径若干小さいφ3～5mm多い
19									
20									φ50mm程度の角礫多くなり、非常 に良く締まっている 若干粗砂～中砂多く混入する
21									
22									
23									
24									24.00m以深、シルト分多く混じる
25	41.67	10.10	25.00						

孔内水位(m)／測定月日：11/19 3.20

標準貫入試験

深度(m)	10cmごとの打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量(cm)	N値
1.15	1	1	1	3/30	3
1.45～2.15	1	1	1	3/30	3
2.45～3.15	1	1	2	4/30	4
3.45～4.15	4	4	3	11/30	11
4.45～5.15	2	1	3	6/30	6
5.45～6.15	2	1	3	6/30	6
6.45～7.15	4	3	4	11/30	11
7.45～8.15	4	4	5	13/30	13
8.45～9.15	9	6	8	23/30	23
9.45～10.15	11	10	12	33/30	33
10.45～11.15	6	6	8	20/30	20
11.45～12.15	7	7	9	23/30	23
12.45～13.15	6	7	7	20/30	20
13.45～14.15	2	3	3	8/30	8
14.45～15.15	16	16	13	45/30	45
15.45～16.15	17	17	12	46/30	46
16.45～17.15	21	16	13/9	50/29	52
17.44～18.15	5	9	10	24/30	24
18.45～19.15	10	5	5	20/30	20
19.45～20.15	17	22	11/6	50/26	58
20.41～21.15	11	14	17	42/30	42
21.45～22.15	20	23	7/3	50/23	65
22.38～23.15	13	13	13	39/30	39
23.45～24.15	11	9	12	32/30	32
24.45～25.15	10	13	9	32/30	32
25.45					



原位置試験 深度(m)	試験名および結果

試料採取 深度(m)	試料番号	採取方法
5.15～5.45	S-1	
6.15～6.45	S-2	
8.15～8.45	S-3	

室内試験(一)	掘進月日
	11/17
	11/18
	11/19

ボーリング柱状図

調　査　名　市営新町住宅他建替えに係る地質調査業務

ボーリングNo	5

事業・工事名

シートNo

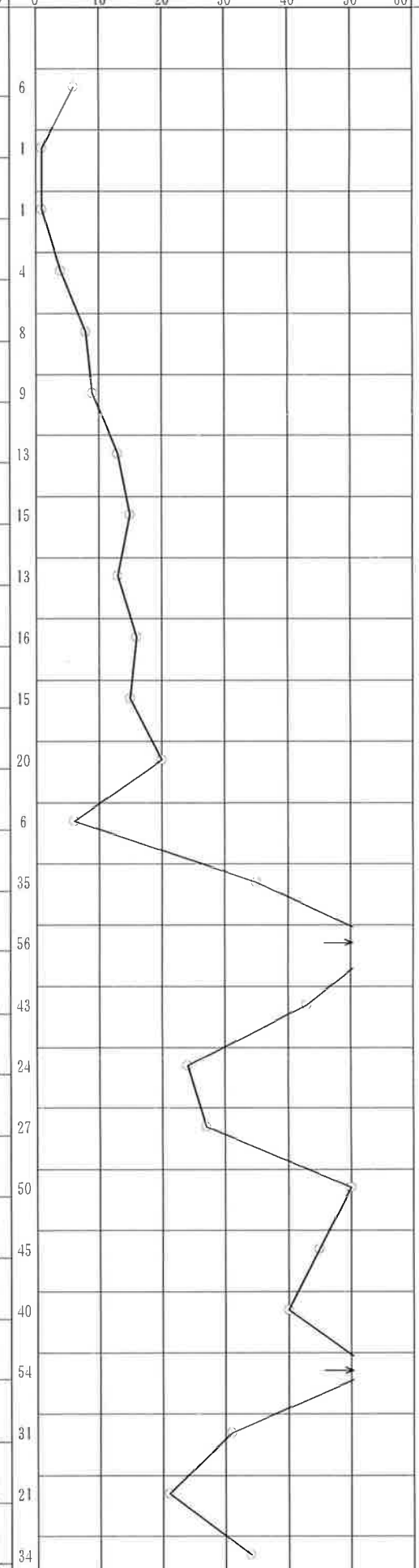
ボーリング名	No. 5	調査位置	大館市字向町3番地1			北緯	
発注機関	大館市			調査期間	平成 23年 11月 21日 ～ 23年 11月 24日	東経	
孔口標高	GH=66.394m	角度	180° 上 90° 下 0°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 水平0° 90°
総掘進長	25.00m	使用機種	試錐機	東邦D-1B	ハンマー落下用具	コーンプーリー	
			エンジン	ヤンマーNFD-13EK	ポンプ	東邦BG-3C	

標尺(m)	標高(m)	層厚(m)	深度(m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事
	65.89	0.50	0.50		盛土	暗褐			φ100～2mmの礫有り
1～4	62.29	3.60	4.10		礫混じり有機質土	暗褐	中位の～非常に緩い		1.50m付近まで50～20mmの角・亜角礫多く混じる 以深、φ10～2mmの亜角・亜円礫散在
5～10	55.79	6.50	10.60		礫混じり火山灰質砂	暗灰	緩い～中位の		φ5～2mmの亜角・亜円礫混入 砂分粗砂 孔壁崩壊し易い
11～13	53.29	2.50	13.10		火山灰質砂	暗灰	中位の		砂分中砂 下部につれやや締まる
14	52.44	0.85	13.95		砂質シルト	暗緑	緩い		砂分細～微細砂 均質で軟い
15～25	41.39	11.05	25.00		シルト質砂礫	青灰～褐	中位の～密な		色調15.30m付近から褐色になる φ60～2mmの角・亜角礫混じる マトリックスでシルト 色調18.20～21.00m間、青灰 他の区間褐色となる Max φ80mm平均40～2mmの角・亜角礫混入 砂分粗砂 下部につれシルト多く含む φ50～2mmの角・亜角礫混入

孔内水位(m)／測定月日：11/24 2.50

標準貫入試験

深度(m)	10cmごとの打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量(cm)	N値
1.15	1	2	3	6/30	6
2.15	1/30			1/30	1
3.15	1/30			1/30	1
4.15	1	2	1	4/30	4
5.15	3	2	3	8/30	8
6.15	3	3	3	9/30	9
7.15	3	5	5	13/30	13
8.15	5	5	5	15/30	15
9.15	5	3	5	13/30	13
10.15	6	5	5	16/30	16
11.15	5	5	5	15/30	15
12.15	6	7	7	20/30	20
13.15	2	2	2	6/30	6
14.15	10	11	14	35/30	35
15.15	13	23	14/7	50/27	56
16.15	14	15	14	43/30	43
17.15	7	6	11	24/30	24
18.15	9	8	10	27/30	27
19.15	20	13	17	50/30	50
20.15	12	17	16	45/30	45
21.15	8	9	23	40/30	40
22.15	23	17	10/8	50/28	54
23.15	11	8	12	31/30	31
24.15	5	6	10	21/30	21
25.15	9	13	12	34/30	34



原位置試験

深度(m)	試験名および結果

試料採取

深度(m)	試料番号	採取方法
5.15	S-1	
6.15	S-2	
8.15	S-3	

室内試験（　）

掘進月日：11/21、11/22、11/23、11/24

ボーリング柱状図

調　査　名　市営新町住宅他建替えに係る地質調査業務

事業・工事名

ボーリングNo	6

シートNo

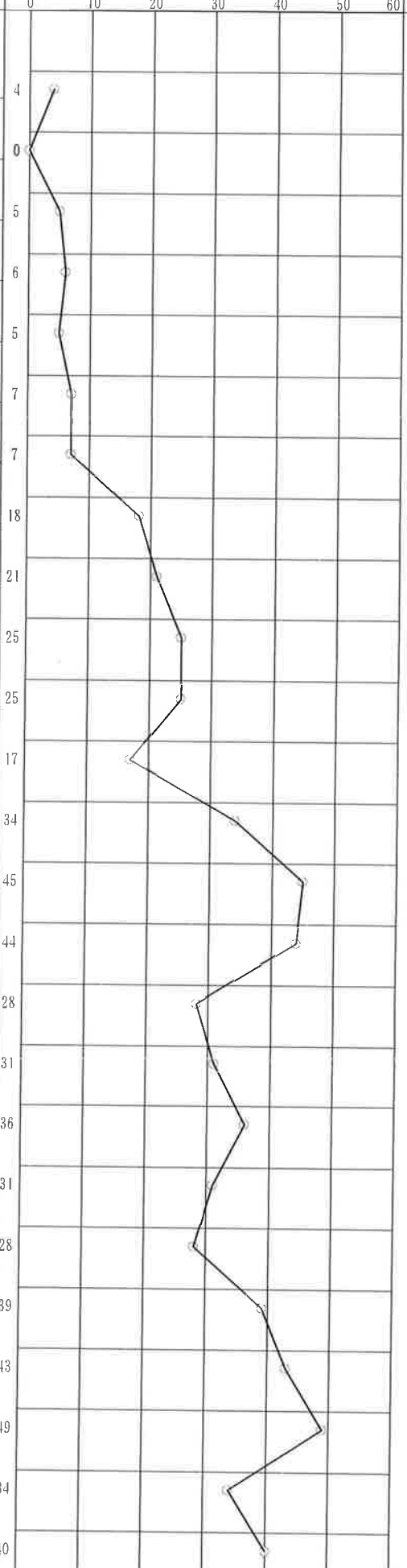
ボーリング名	No. 6	調査位置	大館市字向町3番地1			北緯	
発注機関	大館市			調査期間	平成 23年 11月 30日 ～ 23年 12月 3日	東経	
孔口標高	GH=65.984m	角度	180° 上 90° 下 0°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 水平0° 90°
総掘進長	25.00m	使用機種	試錐機	東邦D-1B	ハンマー落下用具	コーンプーリー	
			エンジン	ヤンマーNFD-13EK	ポンプ	東邦BG-3C	

標尺(m)	標高(m)	層厚(m)	深度(m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事
1					有機質土	黒褐	非常に緩い		耕土または黒土の客土（旧表土） 新鮮な有機物点在、草木根混入する。 非常に軟い（自沈） 含水比高く軟弱 地下水位が高い
2	63.18	2.80	2.80						
3					火山灰質砂	灰褐～暗灰	緩い～中位の		
4									GL-2.80～7.50m付近まで火山灰（シラス） 上部含水比が高く、比較的緩く堆積している 相対密度は「緩い」の状態にある 下部につれ砂の粒径大きくなりやや締まる 孔壁崩壊し易い 砂分中～細砂
5									
6									
7									
8									灰褐色のシラス若干軽石混入する 相対密度は「中位の」の状態にある 砂分均質で良く締まっている
9									
10									
11									
12	53.48	9.70	12.50						
13	52.68	0.80	13.30		有機物混じりシルト質砂	緑灰	中位の		弱風化、有機物挟在 砂分細～微細砂
	52.58	0.10	13.40		細砂	緑灰			均質な細砂
14					砂礫	緑灰～褐	中位の～密な		
15									
16									色調やや不安定で、GL-13.65m付近以深褐色になる φ50～2mmの角～亜円礫混じる砂分粗砂 相対密度は「中位の」～「密な」の状態にある。 全体に角礫が多く礫質土の状況にある 礫径最大φ60mm角・亜角礫その他φ3～15mmの亜角礫多い 非常に良く締まっている
17									
18									
19									
20	45.28	7.30	20.70						
21					砂礫	褐	密な		
22									GL-20.70～21.00mにシルト質砂若干挟むすな、砂分細砂均質で軟らかい φ60～2mmの角礫・亜角礫混入砂分粗砂 GL-24.0～25.0mφ40～2mmの角・亜角礫混入多い マトリックスは粗砂～中砂の砂分で不均質 非常に良く締まっている
23									
24									
25	40.98	4.30	25.00						

孔内水位(m)／測定月日：12/3 3.10

標準貫入試験

深度(m)	10cmごとの打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量(cm)	N値
1.15	1	1	2	4/30	4
1.45～2.15	ハンマー自沈			0/30	0
2.45～3.15	2	1	2	5/30	5
3.45～4.15	1	2	3	6/30	6
4.45～5.15	1	1	3	5/30	5
5.45～6.15	2	2	3	7/30	7
6.45～7.15	2	2	3	7/30	7
7.45～8.15	5	6	7	18/30	18
8.45～9.15	7	6	8	21/30	21
9.45～10.15	7	8	10	25/30	25
10.45～11.15	6	9	10	25/30	25
11.45～12.15	6	7	4	17/30	17
12.45～13.15	5	9	20	34/30	34
13.45～14.15	15	14	16	45/30	45
14.45～15.15	16	14	14	44/30	44
15.45～16.15	5	10	13	28/30	28
16.45～17.15	8	14	9	31/30	31
17.45～18.15	11	13	12	36/30	36
18.45～19.15	10	10	11	31/30	31
19.45～20.15	9	8	11	28/30	28
20.45～21.15	6	17	16	39/30	39
21.45～22.15	14	16	13	43/30	43
22.45～23.15	11	24	14	49/30	49
23.45～24.15	8	13	13	34/30	34
24.45～25.15	14	12	14	40/30	40
25.45					



原位置試験 深度(m)	試験名および結果	試料採取 深度(m)	試料番号	採取方法	室内試験(一)	掘進月日
						11/30
						12/1
						12/2
						12/3

ボーリング柱状図

調　査　名　市営新町住宅他建替えに係る地質調査業務

ボーリングNo 7

事業・工事名

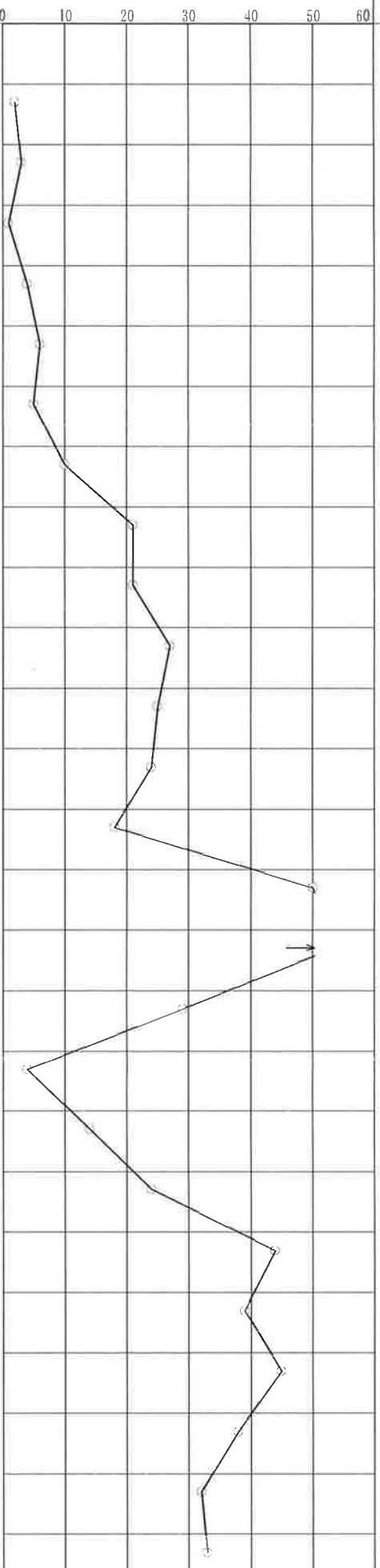
シートNo

ボーリング名	No. 7	調査位置	大館市字向町3番地1			北緯	
発注機関	大館市			調査期間	平成 23年 11月 14日 ～ 23年 11月 16日	東経	
孔口標高	GH=66.394m	角度	180° 上 90° 下 0°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 水平0° 90°
総掘進長	25.00m	使用機種	試錐機	東邦D-1B	ハンマー落下用具	コーンプーリー	
			エンジン	ヤンマーNFD-13EK	ポンプ	東邦BG-3C	

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	孔内水位(m)／測定月日
	66.29	0.10	0.10		黒ボク	黒褐			有機物混じる	
1					礫混じり有機質シルト	黒褐	非常に緩い		0.1～0.3m間　シラス混入 Max φ60mm、平均4～2mmの亜円・亜角礫散在する 有機分は強風化	
2									2.00m以深　礫の混入ほぼなく、均質なシルトとなる	11/16 2.70
3	62.54	3.75	3.85						3.00m以深　含水多く軟弱	
4					礫混じり火山灰質砂	暗灰	緩い～中位の		φ5～2mmの亜円・亜角礫混じる 砂分は粗砂 4.00～5.50m間　褐色の均質な粗砂を2cmの幅で薄層状に挟む	
5										
6										
7										
8										
9	57.04	5.50	9.35							
10					火山灰質砂	灰褐	中位の		砂分細砂 含水少なく、やや締まる 下部につれ、砂の粒径大きくなる	
11										
12										
13	53.19	3.85	13.20							
	52.44	0.75	13.95		礫混じりシルト	暗緑	中位の		φ30～2mmの亜角・亜円礫混入	
14					砂礫	暗灰～褐	非常に密な		全体にマトリックスにシルト有り 色調14.60m付近まで暗灰、以深、褐色になる 砂分粗砂 φ50～2mmの角～亜角礫	
15										
16	49.69	2.75	16.70							
17	48.89	0.80	17.50		シルト	青灰	緩い		均質で軟い	
18					シルト質砂礫	青灰	中位の		φ50～2mmの角・亜角礫 砂分粗砂	
19	46.84	2.05	19.55							
20					砂礫	褐	密な		GL-19.55～19.90mに青灰のシルト若干挟む、均質で軟らかい φ40～2mmの角・亜角礫 やや締まる マトリックスでシルト 砂分粗砂	
21										
22										
23	43.29	3.55	23.10							
24					シルト質砂礫	青灰	密な		～23.10mまでの砂礫よりシルト分強い φ50～2mmの角・亜角礫混じる	
25	41.39	1.90	25.00							

標準貫入試験

深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量 (cm)	N値
1.15	1/15	1/15		2/30	2
1.45 2.15	1	1	1	3/30	3
2.45 3.15	1/30			1/30	1
3.45 4.15	1	1	2	4/30	4
4.45 5.15	2	2	2	6/30	6
5.45 6.15	1	2	2	5/30	5
6.45 7.15	4	3	3	10/30	10
7.45 8.15	6	8	7	21/30	21
8.45 9.15	5	6	10	21/30	21
9.45 10.15	8	10	9	27/30	27
10.45 11.15	8	9	8	25/30	25
11.45 12.15	7	8	9	24/30	24
12.45 13.15	10	5	3	18/30	18
13.45 14.15	16	16	18	50/30	50
14.45 15.15	13	15	22/8	50/28	54
15.45 16.15	10	9	10	29/30	29
16.45 17.15	1	1	2	4/30	4
17.45 18.15	3	5	6	14/30	14
18.45 19.15	10	9	5	24/30	24
19.45 20.15	17	12	15	44/30	44
20.45 21.15	10	10	19	39/30	39
21.45 22.15	12	19	14	45/30	45
22.45 23.15	12	11	15	38/30	38
23.45 24.15	9	12	11	32/30	32
24.45 25.15	11	10	12	33/30	33
25.45					



原位置試験 深度 (m)	試験名および結果	試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験(一)	掘進月日
						11/14
						11/15
						11/16

図５－１ 推定地質層序対比断面図

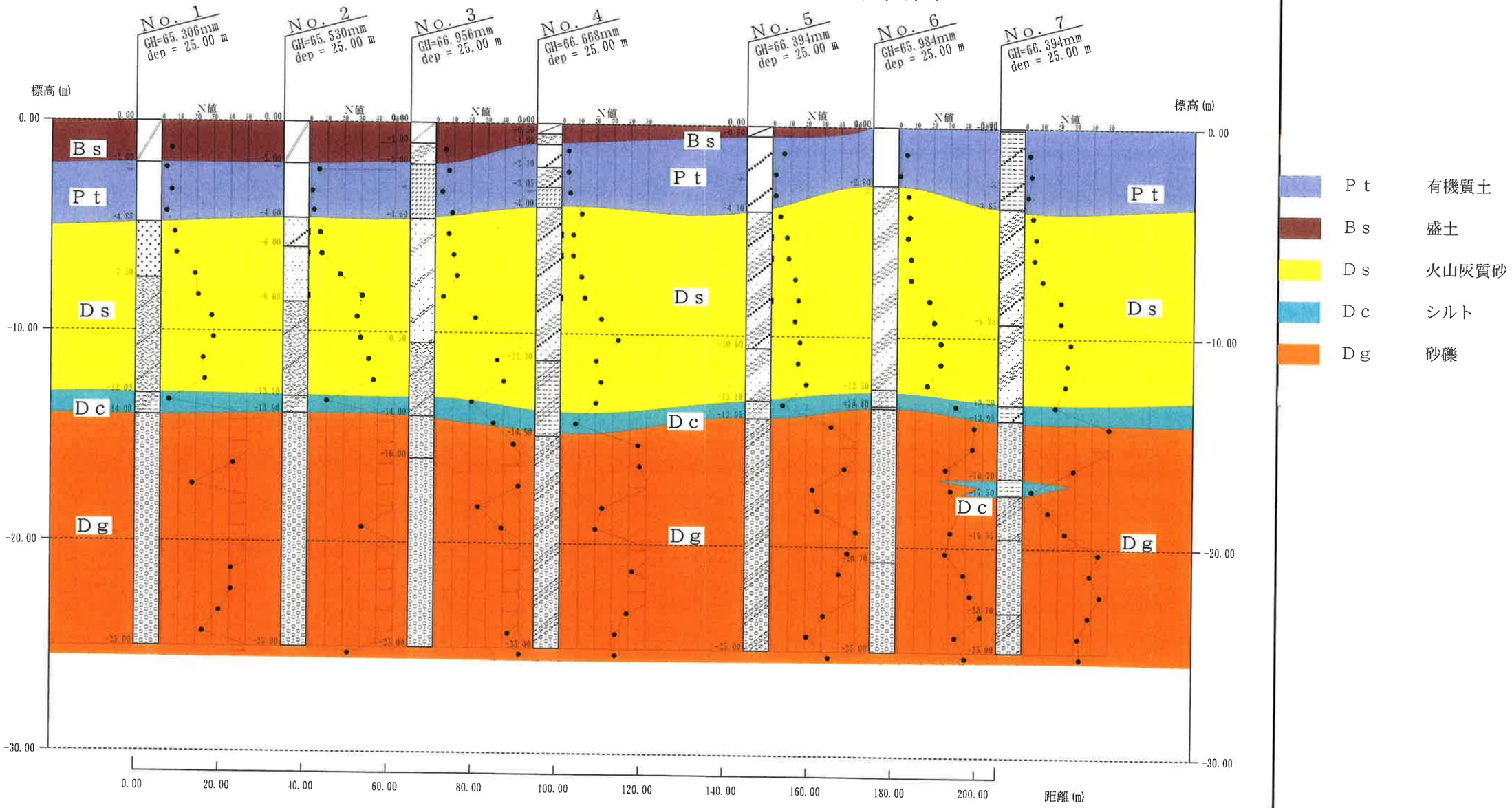


図５－２　中町　推定地質断面図

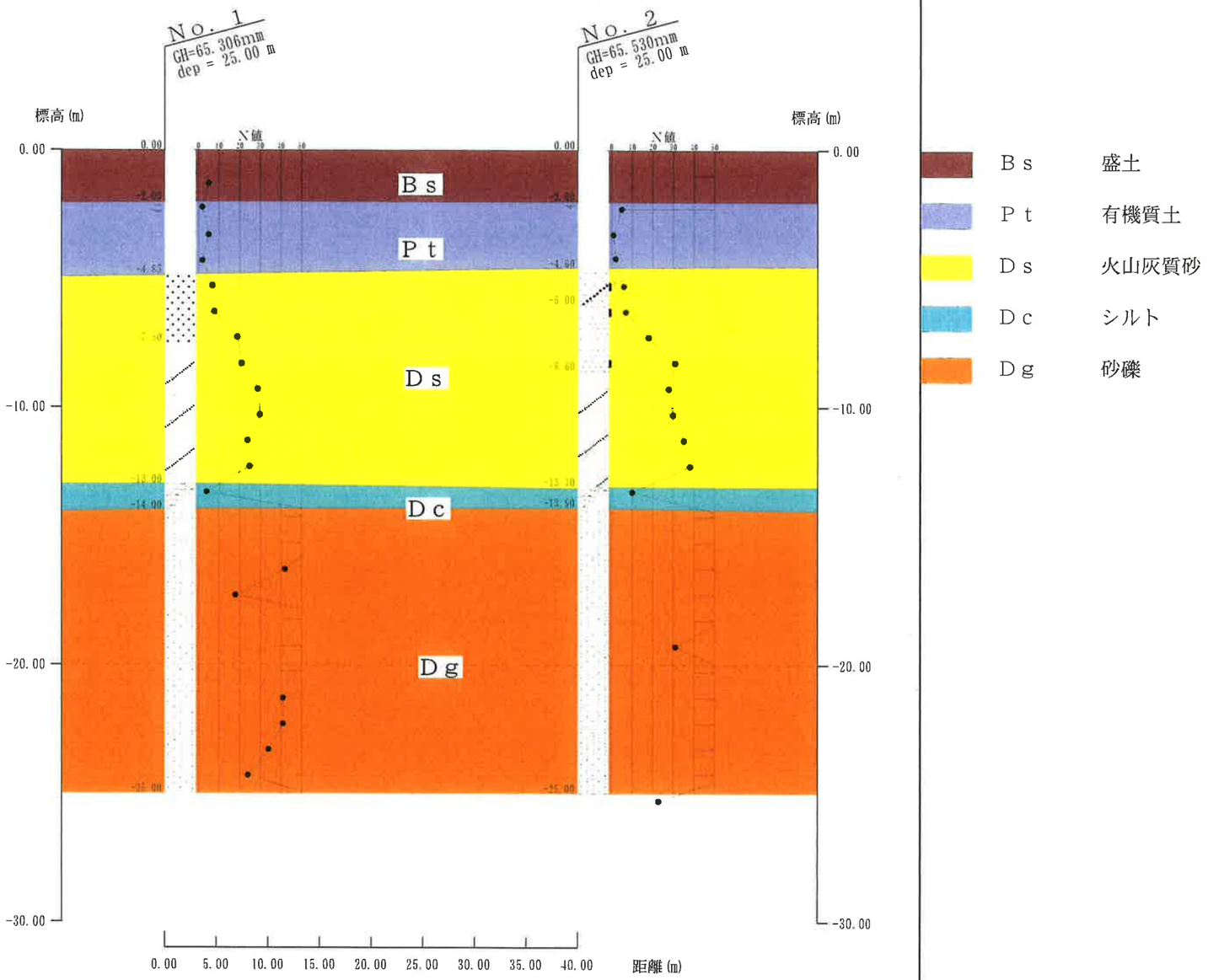
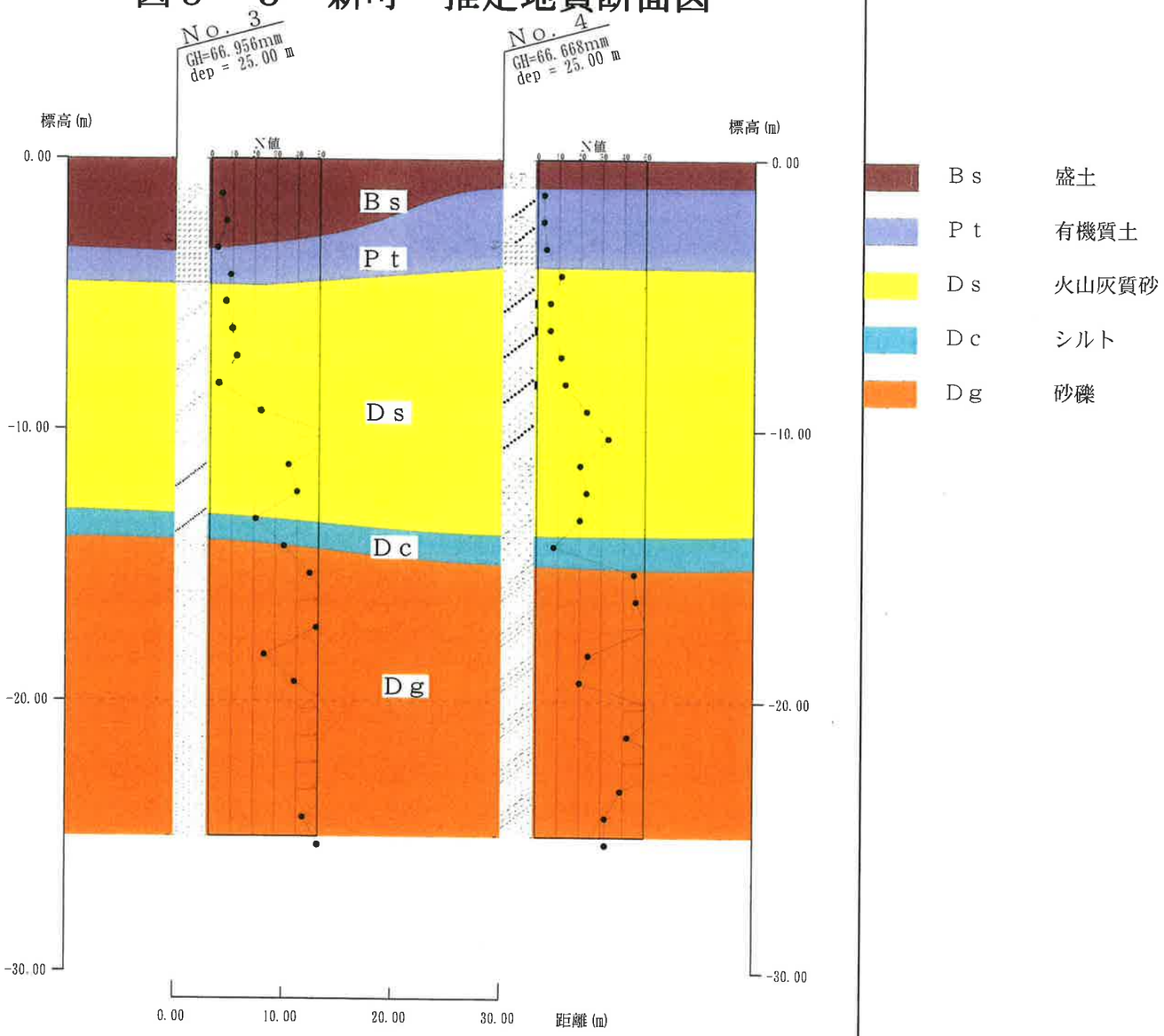
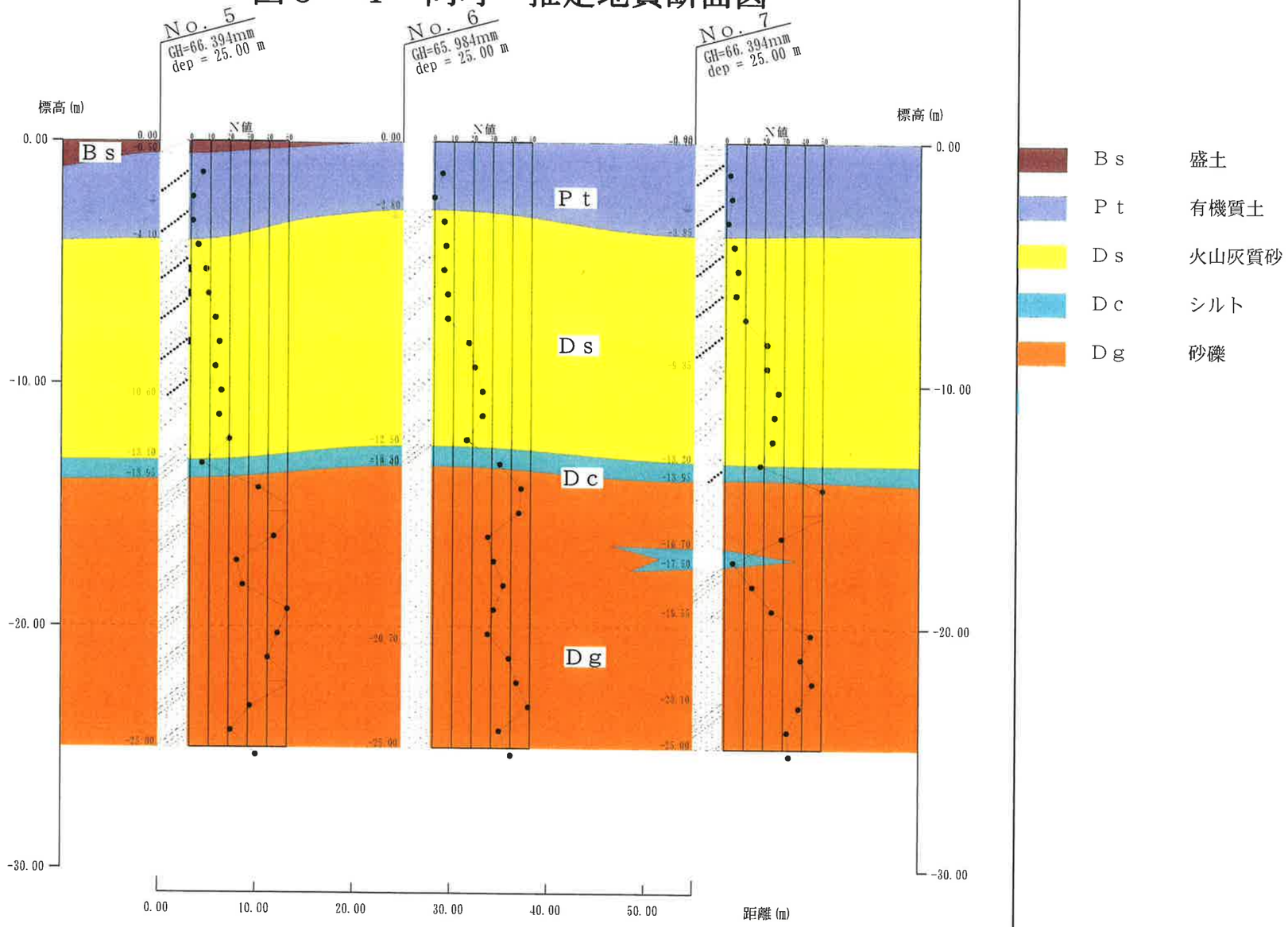


図５－３　新町　推定地質断面図



Ｂｓ	盛土
Ｐｔ	有機質土
Ｄｓ	火山灰質砂
Ｄｃ	シルト
Ｄｇ	砂礫

図５－４　向町　推定地質断面図



Ｂｓ	盛土
Ｐｔ	有機質土
Ｄｓ	火山灰質砂
Ｄｃ	シルト
Ｄｇ	砂礫